

11月8日（火）に袋井西コミュニティセンターにおいて「袋井あやぐも学園保健委員会」を開催しました。

テーマ：「温かい人間関係づくり」



袋井あやぐも学園の幼保こ小中一貫教育について

袋井中学校 一貫教育コーディネーター 奥村 崇志

袋井あやぐも学園では学園目標である「夢を追い続ける子供の育成」を目指して、子供一人一人にとって「魅力ある学校」になるように、絆づくり・居場所づくりを進めています。その手立てとして、宝探しの目もち、子供たちのよいところやできるところをほめる「ボイスシャワー」、「聞く指導」をとおして行動に対する指導を行い、規律を身につけることに重点を置いています。

袋井あやぐも学園は、「学校が楽しい」と回答する児童生徒が全国と比べても高いです。カリキュラムに基づいた教育を行うことで目指す子供の姿を共有し、自立力と社会力を身につけてほしいと思います。

「健康の日」の取り組み

袋井東小学校 養護教諭 杉山 いず実

学園目標を受けて、養護教諭部では「よりよい人間関係を作るために適切な言葉や行動の選択ができる子」を目指して、毎月の健康の日に、コミュニケーション能力を高めるための実践をしています。

今年度からは、『こんなとき、どうする？』をテーマに、実際の生活で起こりそうな場面を挙げ、よりよい答え方や対応の仕方を学ぶレッスンを始めました。「友達づくりのスキル」「相手の気持ちを考えるスキル」「自分の気持ちを伝えるスキル」「感情をコントロールするスキル」について身につけてほしいと思います。ぜひ、お子さんの健康の日のワークシートを御覧ください。



当日の様子



分科会（「つながるシート」を用いて）

社会教育指導員、袋井市家庭教育支援員

県教育委員会が作成した、ワークシート「つながるシート」を活用して分科会を行いました。このシートは、子育てや家庭教育について、親の悩みや不安の軽減に「つながる」、話し合いの中で親同士が「つながる」、互いに学び合い、親として育ち合うことで子供の健やかな成長に「つながる」ことを目的と作成されたものです。

- 分科会テーマ：①ほどよい距離間（小学校低学年～高学年）
②ほどよい距離間（小学校高学年～中学校）
③我が家のケータイ・スマホルール



保護者の感想より



思春期の子供への対応方法について、他のお母さんから参考になる話が聞けました。

周りの意見を聞いて、自分とは違うやり方を知って参考になりました。子供との関係を今より良くしたいです。

様々な学年、性別のお子さんがある方々と話して、思春期の子供に対する接し方に多くの共通点があり、今後の参考になりました。心にゆとりのある母親にならなきゃなあと改めて思いました。

スマホルール、子供たちはきちんと約束を守ろうとしている中、むしろ、自分自身がスマホを使いすぎなのではないか・・・と振り返ることができました。

友野スクールカウンセラー講話

思春期は、子供たちが親より友達との関係を大切に感じるようになる時期です。正義を振り回しながら、正しくないことをしたくなってしまいう時期でもあります。これは、自立に向けた順調な成長です。



家は子供たちにとって基地

安心できる場所 温かく迎えてくれる場所
ボーっとすることができる場所

親が掛ける言葉は、子供の人生物語を作ってしまうかもしれません。「あなたは、そそっかしいね。」と言われ続けると、自分はそそっかしいのだと思い込んでしまうかもしれません。逆に、そそっかしいから気をつけようと思って行動できる子になるかもしれません。その子がもって生まれた資質を認めてあげてください。そして、「私は、〇〇だと思うよ。」「お母さんは、〇〇してほしいな。」と伝え、子供がどうしたらいいのか考えて行動できるような声掛けをしてあげてくださいね。